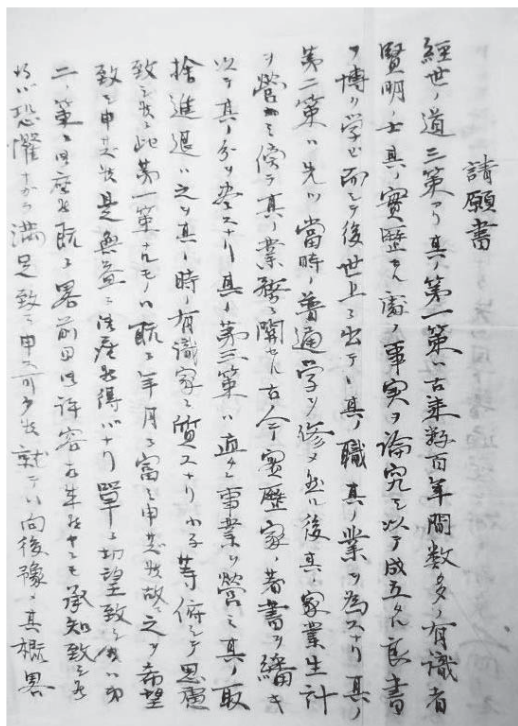
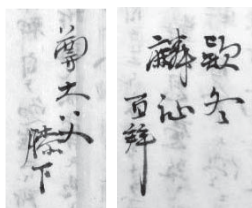




蒙軒学舎 展示室だより④

資料室では過日、近藤喜則の玄孫（4代後の直系子孫）にあたる近藤孝行さん（さいたま市在住）より、近藤家所有の喜則に関する資料をお預かりしました。現在、資料のリストづくりや、重要資料の読み込みに取り組んでいます。内訳としては、手記・書簡・書類・書籍等で、150点ほどになります。今回は、この資料の中で他とは少々趣の異なるものが見つかりましたのでご紹介します。

それは『請願書』と題された1670文字からなる長文のもので、請願者は「款冬・麟趾」、請願先は「尊大父」となっています。請願先の尊大父とは喜則のことです。請願者の款冬とは喜則の長男 落太郎、麟趾は次男 麟次郎 のことで、彼らが20代前半の頃書いたものと思われる。つまり長男・次男が連名で父親に請願書を提出している訳です。



『請願書』の冒頭部分

この二人は、父喜則が「修身立志」の教育目標を掲げて設立した蒙軒学舎で、若くして教鞭をとる傍ら、講師陣や塾生たちをとりまとめる教頭の役割も担っていました。

さて、請願書の内容ですが、冒頭で「新しい学問を習得し、現状の職にそれを生かしたい。また、古今の実践者の行いや書を学び、家業である蒙軒学舎の経営に生かしていきたい。ついては私たちの東京遊学を許可してほしい」と述べ、次に「2人で2年間、半年交代。最低限の経済的支援をお願いしたい」旨を具体的な数字をあげて説明しています。後半には『小子等（自分たちは）未だ産業ヲ営ム（蒙軒学舎の経営）ヲ尚早キヤ』の記述があり、若年で塾経営を任された悩みも読み取れます。しかし、『請願書』全体からは、一層の学問修行に励み、ついてはこの地で塾経営をさらに振興させようとする二人の強い決意が読み取れ、蒙軒学舎の目標である「修身立志」を自らが実践しようとする姿が浮かんできます

喜則は、この願いを聞き入れており、それは自伝『一家小伝』の「明治18年2月麟止妻子ヲ携へ東京ニ遊学」のくだりから読み取れます。しかし、同じく18年2月の項には「落太郎肺ヲ患フ」とあり、落太郎の願いは叶わなかったことが考えられます。

新時代の夜明けから10数年、教育者として、塾経営者として、悩みながらも真摯に生きる若い二人が、南部の地にいたことに、ある種の感慨を覚えます。その後、明治21年1月に麟次郎が、7月には落太郎が肺結核で亡くなります。若き二人の教育や塾経営への熱い思いは、完成形には至りませんでした。

その後、蒙軒学舎は廃校となったものの、その思いは今も南部町に受け継がれているものと思います。

「南部警察署・南部町消防団による町内防犯診断実施結果」

平成30年度（診断実施日：平成30年12月4日夜間）		平成30年度	平成29年度		
実施件数	一般住宅診断総件数	2,604件	2,731件		
	事業所等診断総件数	123件	126件		
	駐車車両診断総件数	1,330件	1,502件		
	計	4,057件	4,359件		
指導件数	一般住宅	玄関・勝手口の施錠状況	無施錠	144件	187件
			不具合	4件	2件
		敷地内駐車車両の施錠状況	無施錠	183件	246件
			車両内への貴重品等の放置	0件	4件
		建物周囲に可燃物はないか	ある	23件	33件
		計	354件	472件	
	事業所等	玄関・勝手口の施錠状況	無施錠	1件	1件
			敷地内車両の施錠状況	無施錠	8件
		敷地内車両の施錠状況	車両内への貴重品等の放置	0件	0件
			建物周囲に可燃物はないか	ある	3件
		計	12件	19件	
	駐車車両	住宅及び事業所等駐車場以外の駐車車両の施錠状況	無施錠	45件	15件
			車両内への貴重品等の放置	0件	0件
		計	45件	15件	

刑法犯の約7割が窃盗犯罪で、私たちの身近な生活空間で発生しています。

町内防犯診断（夜間）は、防犯という視点から、「安全で安心なまちづくり」を推進していく取組みの一環として、毎年、南部警察署と南部町消防団の協働により、実施しています。

空き巣、電話詐欺など身近な犯罪を抑止し、犯罪のない地域社会の実現を目指すためには、町民一人ひとりが防犯意識を高く持つことが重要で、犯罪を未然に防ぐことに繋がります。近年、住宅等を対象とした侵入犯罪は依然高い水準にあり、財産だけでなく身の危険を伴うこともあります。町民の皆様には、お出かけ前・就寝前の戸締り（住宅・自動車等）を再点検し、犯罪の起こりにくい町づくりのため、自主防犯意識の向上と推進に努めましょう。



あなたの家と車の施錠等大丈夫ですか？